

ANAホールディングス株式会社 説明会

2024年3月期 第3四半期決算

2024年1月31日

上席執行役員
グループCFO

中堀 公博



- ① 本日は、2024年3月期 第3四半期の決算説明会にご参加頂きまして、誠にありがとうございます。
- ② 最初に、スライドの3ページをご覧ください。

目次

2023年度 第3四半期決算

1. 決算概要・業績予想の修正		3. 航空事業	
決算概要（第3四半期累計）	P. 3	収入・費用	P. 15
決算概要（第3四半期）	P. 4	営業利益 増減要因	P. 16
事業別の取り組み	P. 5	ANA国際旅客	P. 19-21
航空事業・事業別の需要動向	P. 6	ANA国内旅客	P. 23-24
通期業績予想（修正）	P. 7	ANA国際貨物	P. 27-29
セグメント別計画（修正）	P. 8	ANA国内貨物	P. 30
航空事業 売上・費用計画（修正）	P. 9	LCC (Peach Aviation)	P. 31-32
今後の事業環境	P. 10	ANA国際線 方面別実績（構成比）	P. 33-34
		燃油・為替ヘッジの進捗状況（ANA）	P. 35
2. 連結決算（詳細）		航空機数	P. 36
経営成績	P. 11	4. ノンエア事業	
財政状態	P. 12	航空事業以外のセグメント	P. 37
キャッシュフロー	P. 13		
セグメント別実績	P. 14		

決算概要 (第3四半期累計)

2023年度 第3四半期決算 (4-12月、連結)

(億円)	実績	前年差	前年比
売上高	15,435	+2,849	+22.6%
航空事業	14,081	+2,741	+24.2%
営業費用	13,334	+1,737	+15.0%
航空事業	12,045	+1,696	+16.4%
営業利益	2,101	+1,111	+112.3%
航空事業	2,036	+1,044	+105.4%
営業利益率	13.6%	+5.7pt	-
経常利益	2,071	+1,147	+124.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,489	+863	+137.9%
EBITDA	3,164	+1,099	+53.3%



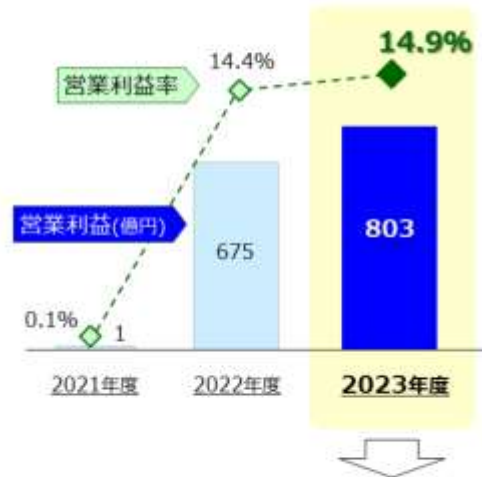
コストマネジメントを徹底しながら、トップラインを拡大
→ 営業利益は過去最高を大幅に更新

- ① 第3四半期決算の概要について、ご説明します。
- ② **売上高**は、前年から2,849億円、22.6パーセント増加の、1兆5,435億円となりました。航空事業を中心に、前年から大幅な増収となりました。
- ③ **営業利益**は、前年から1,111億円増加し、2,101億円となりました。コストマネジメントを徹底しながら、トップラインを拡大し、第3四半期累計として過去最高を大幅に更新しました。
- ④ **親会社株主に帰属する四半期純利益**は、1,489億円となりました。また**EBITDA**は、前年から1,099億円増加して、3,164億円となりました。
- ⑤ 4ページをご覧ください。

決算概要 (第3四半期)

2023年度 第3四半期 (10-12月のみ、連結)

(億円)	実績	前年差	前年比
売上高	5,408	+729	+15.6%
航空事業	4,950	+738	+17.5%
営業費用	4,604	+600	+15.0%
航空事業	4,191	+571	+15.8%
営業利益	803	+128	+19.0%
航空事業	758	+167	+28.2%
営業利益率	14.9%	+0.4pt	-
経常利益	798	+176	+28.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	557	+126	+29.5%
EBITDA	1,163	+121	+11.7%

営業利益・営業利益率の推移
(第3四半期・連結)

第3四半期(10~12月のみ)でも
過去最高の利益・利益率を達成

- ① こちらは、10月から12月の第3四半期単独の決算概要です。
- ② 当第3四半期の**営業利益**は803億円、**営業利益率**は14.9パーセントとなり、第3四半期単独でも、過去最高の実績となりました。
- ③ 5ページをご覧ください。

事業別の取り組み (第3四半期)

	具体的な取り組み (10~12月)	売上高 (前年同期比・差)	主な指標
ANA			
国際旅客	運休路線の再開・増便・機材大型化で生産量を拡大 高イールドを維持しながら、海外発需要を中心に取り組み	+50% (+639億円)	イールド(実数) 2Q 3Q 18.0円 18.3円
国内旅客	需要喚起策の効果も寄与し、レジャー需要が好調に推移 6月以降の値上げ効果を持続し、単価を向上	+16% (+243億円)	単価(前年比) 2Q 3Q +2.6% +5.7%
国際貨物	中国発北米向けの三国間貨物を高単価で獲得 大型フレイターを活用し、特殊商材の取り込みを強化	△39% (△282億円)	単価(実数) 2Q 3Q 213円 255円
peach			
LCC	国際線のリソース配分を高め、旺盛な訪日需要を獲得	+59% (+124億円)	利用率(実数) 86%

単価を維持・向上しながら、トップラインの拡大を継続

- ① 第3四半期の事業別の取り組みについてご説明します。
- ② **ANA国際旅客**は、
コロナ禍で運休していた路線の再開などにより、生産量を拡大しました。
第2四半期と同水準のイールドを維持しながら、海外発需要を中心に取り込んだ結果、
売上高は前年の1.5倍に拡大し、四半期ベースで過去最高の収入となりました。
- ③ **ANA国内旅客**では、レジャー需要が好調に推移しました。
また、6月以降の一部運賃値上げの効果を持続し、単価は前年から約6パーセント向上しました。
- ④ **ANA国際貨物**は、中国発北米向けの三国間貨物を高単価で獲得したことなどにより、
単価は第2四半期から大きく改善しました。
- ⑤ **Peach**は、国際線のリソース配分を高め、旺盛な訪日需要を獲得した結果、
売上高は前年の1.6倍に増加しました。
- ⑥ 以上のとおり、旅客事業、貨物事業ともに単価を維持・向上しながら、
トップラインの拡大を継続しました。
- ⑦ 6ページをご覧ください。

航空事業・事業別の需要動向 (コロナ前との比較)

1. ANA国際旅客



2. ANA国際貨物



3. 国内旅客 (ANA・Peach)



* グラフは全てコロナ前との比較

① 4~12月実績 : 2019年4~12月 (2019年度1~3Q)との比較

② 1~2月見直し : 2019年1~2月 (2018年度4Q)との比較

* 2019年実績は、新収益認識基準に置き換えて算定

©ANAHD2024

6

- ① 事業別の需要動向です。
- ② 1番の**ANA国際旅客**は、中国線の需要回復が想定よりも緩やかになっていることなどにより、第4四半期の旅客数は、第3四半期と同程度の回復率で推移すると見通しています。
- ③ 2番の**ANA国際貨物**は、コロナ前と比べて年末商戦の需要が弱含んだことで、11月、12月の回復率が低下しましたが、1月以降はコロナ前比8割程度で推移しています。今後も需要動向を注視しながら、柔軟に運航便を設定し、収支の最大化を図ります。
- ④ 3番の**国内旅客**について、1月は羽田空港の滑走路閉鎖による影響がありましたが、2月以降はレジャー需要を中心に堅調に推移する見込みです。
- ⑤ 7ページをご覧ください。

通期業績予想(修正)

2023年度 通期業績予想の修正(連結)

(億円)	当初計画 (23.4.27)	今回修正 (24.1.31)	差異
売上高	19,700	20,300	+600
航空事業	17,640	18,450	+810
営業利益	1,400	1,900	+500
航空事業	1,340	1,840	+500
営業利益率	7.1%	9.4%	+2.3pt
経常利益	1,150	1,900	+750
親会社株主に帰属する 当期純利益	800	1,300	+500
EBITDA	2,830	3,325	+495

市況	当初計画	修正計画 (第4四半期)
為替レート(円/US\$)	135	145
ドバイ原油 (US\$/bbl)	80	75
シンガポールクロシン (US\$/bbl)	100	100

修正のポイント

- 1) 第3四半期までの実績
旅客事業の大幅な増収
[国際線] 回復する需要を高単価で獲得
[国内線] レジャー需要が好調に推移
- 2) 第4四半期の見通し
人財への投資、エンジン関連費用の増加

通期業績予想を上方修正
→ 過去最高益となる見込み

©ANAHD2024

7

- ① 通期業績予想の修正について、ご説明します。
- ② 第3四半期までの実績は、旅客事業の売上が、当初計画と比べて大幅な増収となりました。国際線で、回復する需要を高単価で獲得したことに加えて、国内線では、レジャー需要が好調に推移しました。一方、第4四半期は、人財への投資やエンジン関連費用が増加することを見込んでいます。
- ③ 以上をふまえ、あらためて年度見通しを精査した結果、通期の業績予想を上方修正することとしました。
- ④ 売上高は、当初計画から600億円増加の、2兆300億円とします。営業利益は、当初計画の1,400億円から、過去最高益となる1,900億円に修正します。経常利益は1,900億円、親会社株主に帰属する当期純利益は1,300億円とします。
- ⑤ 10ページをご覧ください。

セグメント別 計画 (修正)

(億円)		FY2022	FY2023 修正予想	前年差	FY2023 当初予想*
売上高	航空事業	15,394	18,450	+ 3,055	17,640
	航空関連事業	2,471	2,900	+ 428	2,860
	旅行事業	738	800	+ 61	1,060
	商社事業	1,032	1,200	+ 167	1,340
	その他	380	400	+ 19	400
	調整額	△ 2,942	△ 3,450	△ 507	△ 3,600
	合計 (連結)	17,074	20,300	+ 3,225	19,700
営業利益	航空事業	1,241	1,840	+ 598	1,340
	航空関連事業	23	100	+ 76	85
	旅行事業	△ 2	10	+ 12	40
	商社事業	35	50	+ 14	40
	その他	5	10	+ 4	5
	調整額	△ 102	△ 110	△ 7	△ 110
	合計 (連結)	1,200	1,900	+ 699	1,400

* 2023年4月27日開示の業績予想

航空事業 売上高・営業費用 計画 (修正)

(億円)		FY2022	FY2023 修正予想	前年差	FY2023 当初予想*
売上高	国際旅客	4,334	7,270	+ 2,935	6,170
	ANA				
	国内旅客	5,295	6,420	+ 1,124	6,300
	貨物郵便	3,413	1,880	△ 1,533	2,530
	その他	1,447	1,550	+ 102	1,430
	Peach・AirJapan	902	1,330	+ 427	1,210
	合計	15,394	18,450	+ 3,055	17,640
営業費用	燃油費・燃料税	3,477	3,960	+ 482	4,060
	燃油費・燃料税 以外	10,675	12,650	+ 1,974	12,240
	合計	14,152	16,610	+ 2,457	16,300
営業利益	営業利益	1,241	1,840	+ 598	1,340

* 2023年4月27日開示の業績予想

今後の事業環境について

今後の事業環境と主な取り組み (第4四半期～2024年度)

売上高	1. 国際旅客	1) 各国エアラインの供給量回復が進み、イールドは正常化に向かうと想定 →羽田路線を中心に生産量を増加し、旅客数の獲得で収益拡大
	2. 国内旅客	1) エアバス機の稼働減に伴う減便は、2024年7月で終了 →レジャー需要の更なる獲得と、単価向上に向けた取り組みを強化
	3. 国際貨物	1) 主要商材の需要は、2024年度下期にかけて回復する見通し →旅客便とフレイターの特性を活かし、最適なネットワークで収益を最大化
営業費用	4. 公租公課等の減免	1) 燃料油価格の激変緩和措置は、2024年4月末まで(1月末時点) 2) 空港使用料の減免額が、2024年3月以降は縮小
	5. 人材への投資	1) 持続的な成長に向けて、生産性向上や人手不足*への対応策を強化 * 空港グランドハンドリング、保安検査要員など
	6. 機材への対応	1) A320/321neo型機の非稼働機数の抑制に向けた対応を継続 2) 生産量回復に伴う各種エンジンの整備機会の増加に確実に対応

事業環境の変化に柔軟かつ適切に対応しながら、中期的な成長を追求

- ① 今後の事業環境の見通しについて、主なポイントをご説明します。
- ② まず、売上高について、
1番の**国際旅客**では、総供給量の回復に伴い、イールドは徐々に正常化に向かうと想定しており、羽田路線を中心に生産量を増加しながら、旅客数の獲得により収益を拡大します。
また、3番の**国際貨物**は、2024年度の下期にかけて主要商材の需要の回復を見通しています。
- ③ 次に、営業費用について、
5番のとおり、生産性向上や航空業界の人手不足などの課題に対応するため、
今後は人材への投資をより一層強化する方針です。
また、6番の機材への対応は、エアバス機の非稼働機数の抑制に引き続き取り組むとともに、
生産量の回復により各種エンジンの整備機会の増加を見込んでいます。
- ④ 今後の事業環境の変化に柔軟かつ適切に対応しながら、中期的な成長を追求していきます。
- ⑤ 続いて、11ページをご覧ください。

経営成績

(億円)	FY2022 第3四半期累計	FY2023 第3四半期累計	前年差	FY2023 第3四半期	前年差
売上高	12,586	15,435	+ 2,849	5,408	+ 729
営業費用	11,596	13,334	+ 1,737	4,604	+ 600
営業利益	989	2,101	+ 1,111	803	+ 128
営業利益率 (%)	7.9	13.6	+ 5.7pt	14.9	+ 0.4pt
営業外損益	△ 66	△ 29	+ 36	△ 5	+ 48
経常利益	923	2,071	+ 1,147	798	+ 176
特別損益	△ 0	△ 4	△ 4	△ 0	△ 0
親会社株主に帰属する四半期純利益	626	1,489	+ 863	557	+ 126
四半期純利益	636	1,498	+ 861	561	+ 125
その他包括利益	△ 195	28	+ 224	△ 486	△ 69
包括利益	441	1,526	+ 1,085	74	+ 55

- ① ここから、連結決算の詳細についてご説明します。
- ② **売上高**は、前年から2,849億円増加し、1兆5,435億円、**営業費用**は、1,737億円増加の、1兆3,334億円となりました。
- ③ これらの結果、**営業利益**は2,101億円、**経常利益**は2,071億円となり、いずれも第3四半期累計として過去最高となりました。
- ④ また、**親会社株主に帰属する四半期純利益**は1,489億円となりました。
- ⑤ 12ページをご覧ください。

財政状態

(億円)	FY2022 期末	FY2023 第3四半期末	前年度 期末差
総資産	33,667	34,850	+ 1,183
自己資本	8,624	10,136	+ 1,512
自己資本比率 (%)	25.6	29.1	+ 3.5pt
有利子負債残高	16,079	15,299	△ 779
D/Eレシオ (倍)	1.9	1.5	△ 0.4
手元流動性資金 *1	11,837	12,990	+ 1,153
純有利子負債残高 *2	4,241	2,309	△ 1,932
ネットD/Eレシオ (倍) *3	0.5	0.2	△ 0.3

*1 手元流動性資金 = 現金及び預金 + 有価証券

*2 純有利子負債残高 = 有利子負債残高 - 手元流動性資金

*3 ネットD/Eレシオ = 純有利子負債 ÷ 自己資本

- ① 財政状態です。
- ② 総資産は3兆4,850億円、自己資本は1兆136億円、自己資本比率は29.1パーセントとなりました。
- ③ また、有利子負債は1兆5,299億円、手元流動性資金は1兆2,990億円となったことから、純有利子負債をベースとした、ネットデット・エクイティ・レシオは、0.2倍となりました。
- ④ 13ページをご覧ください。

キャッシュフロー

(億円)	FY2022 第3四半期累計	FY2023 第3四半期累計	前年差
営業キャッシュフロー	3,392	3,229	△ 163
投資キャッシュフロー *1	△ 747	△ 3,513	△ 2,765
財務キャッシュフロー	△ 1,275	△ 891	+ 384
現金及び現金同等物の増減額 *1	1,393	△ 1,154	△ 2,547
現金及び現金同等物の期首残高 *1	8,823	11,134	} △ 1,154
現金及び現金同等物の期末残高 *1	10,216	9,980	
減価償却費	1,114	1,063	△ 51
設備投資額 (固定資産のみ)	943	1,496	+ 553
実質フリーキャッシュフロー (3ヶ月超の譲渡性預金等を除く)	2,578	2,023	△ 554
EBITDA (営業利益 + 減価償却費 *2)	2,065	3,164	+ 1,099
EBITDAマージン (%)	16.4	20.5	+ 4.1pt

*1 当年度よりキャッシュフローにおける資金の範囲を変更 (前年実績も変更を反映)

*2 休止機材費に計上した減価償却費を含まない

- ① キャッシュフローです。
- ② 営業キャッシュフローは、3,229億円の収入
投資キャッシュフローは、3,513億円の支出、
財務キャッシュフローは、891億円の支出となりました。
- ③ また、実質フリーキャッシュフローは、2,023億円の収入となりました。
- ④ 14ページをご覧ください。

セグメント別実績

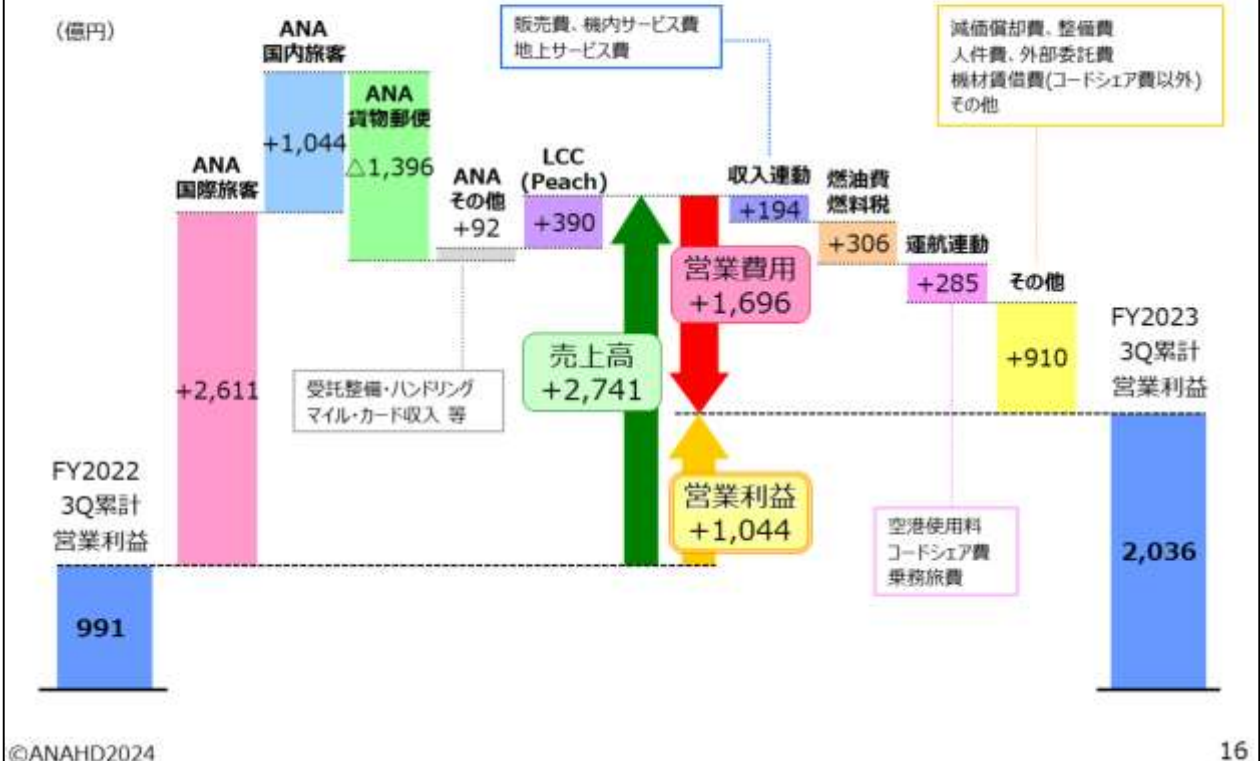
(億円)		FY2022 第3四半期累計	FY2023 第3四半期累計	前年差	FY2023 第3四半期	前年差
売上高	航空事業	11,340	14,081	+ 2,741	4,950	+ 738
	航空関連事業	1,802	2,092	+ 289	727	+ 60
	旅行事業	530	592	+ 61	196	△ 13
	商社事業	765	867	+ 101	293	+ 4
	その他	272	287	+ 15	100	+ 5
	調整額	△ 2,125	△ 2,485	△ 360	△ 859	△ 65
	合計(連結)	12,586	15,435	+ 2,849	5,408	+ 729
営業利益	航空事業	991	2,036	+1,044	758	+ 167
	航空関連事業	51	96	+ 44	52	△ 30
	旅行事業	△ 6	13	+ 19	3	△ 2
	商社事業	30	42	+ 12	15	+ 1
	その他	3	7	+ 3	7	△ 0
	調整額	△ 80	△ 94	△ 13	△ 33	△ 5
	合計(連結)	989	2,101	+ 1,111	803	+ 128

- ① セグメント別の実績です。
- ② 航空関連事業は、空港ハンドリング業務などの受託が増加し、増収増益となりました。
- ③ 旅行事業では、昨年実施された全国旅行支援の裏年影響がありましたが、国内を中心に旅行需要を着実に取り込み、増収増益となりました。
- ④ 商社事業は、空港リテール事業の堅調な回復などにより、黒字幅が拡大しました。
- ⑤ 16ページをご覧ください。

収入・費用

(億円)		FY2022 第3四半期累計	FY2023 第3四半期累計	前年差	FY2023 第3四半期	前年差
売上高	ANA 国際旅客	2,903	5,515	+ 2,611	1,929	+ 639
	ANA 国内旅客	3,921	4,965	+ 1,044	1,736	+ 243
	ANA 貨物郵便	2,818	1,421	△ 1,396	527	△ 292
	ANA その他	1,076	1,168	+ 92	420	+ 23
	LCC	620	1,010	+ 390	336	+ 124
	合計	11,340	14,081	+ 2,741	4,950	+ 738
営業費用	燃油費・燃料税	2,596	2,902	+ 306	1,025	+ 135
	空港使用料	428	641	+ 213	223	+ 62
	航空機材賃借費	987	1,122	+135	377	+ 39
	減価償却費	1,031	1,021	△ 9	344	△ 7
	整備部品・外注費	958	1,221	+ 262	443	+ 128
	人件費	1,402	1,502	+ 99	511	+ 33
	販売費	355	406	+ 50	137	+ 8
	外部委託費	1,523	1,863	+ 340	650	+ 76
	その他	1,064	1,362	+ 298	478	+ 92
		合計	10,348	12,045	+ 1,696	4,191
	営業利益	991	2,036	+ 1,044	758	+ 167
営業利益	EBITDA (営業利益+減価償却費)	2,022	3,058	+ 1,035	1,103	+ 159
	EBITDAマージン (%)	17.8	21.7	+ 3.9pt	22.3	△ 0.1pt

営業利益 増減要因



- ① 航空事業における、営業利益の前年比較です。
- ② **売上高**は、国際線を中心に旅客事業が好調に推移したことなどにより、全体で2,741億円の増加となりました。
- ③ **営業費用**は、生産連動費用やグループ従業員の人件費などが増加する中、コストマネジメントの徹底により、前年から1,696億円の増加に留めました。
- ④ これらの結果、営業利益は1,044億円増加し、2,036億円となりました。
- ⑤ 20ページをご覧ください。

Intentionally Left Blank

Intentionally Left Blank

ANA国際旅客

	FY2022 第3四半期累計	FY2023 第3四半期累計	前年比(%) (CY19比)*2	FY2023 第3四半期	前年比(%) (CY19比)*2
座席キロ (百万)	24,804	39,512	+ 59.3 (△ 25.1)	13,609	+ 34.8 (△ 23.7)
旅客キロ (百万)	17,994	30,844	+ 71.4 (△ 27.5)	10,516	+ 44.4 (△ 26.6)
旅客数 (千人)	2,817	5,310	+ 88.5 (△ 34.9)	1,838	+ 58.9 (△ 31.7)
座席利用率 (%)	72.5	78.1	+5.5pt*1 (△2.6pt)	77.3	+5.1pt*1 (△3.1pt)
旅客収入 (億円)	2,903	5,515	+ 89.9 (+ 9.4)	1,929	+ 49.6 (+ 14.6)
ユニットレベニュー (円) (旅客収入/座席キロ)	11.7	14.0	+ 19.2 (+ 46.0)	14.2	+ 10.9 (+ 50.2)
イールド (円) (旅客収入/旅客キロ)	16.1	17.9	+ 10.8 (+ 50.8)	18.3	+ 3.6 (+ 56.2)
単価 (円) (旅客収入/旅客数)	103,063	103,864	+ 0.8 (+ 68.0)	104,908	△ 5.9 (+ 67.7)

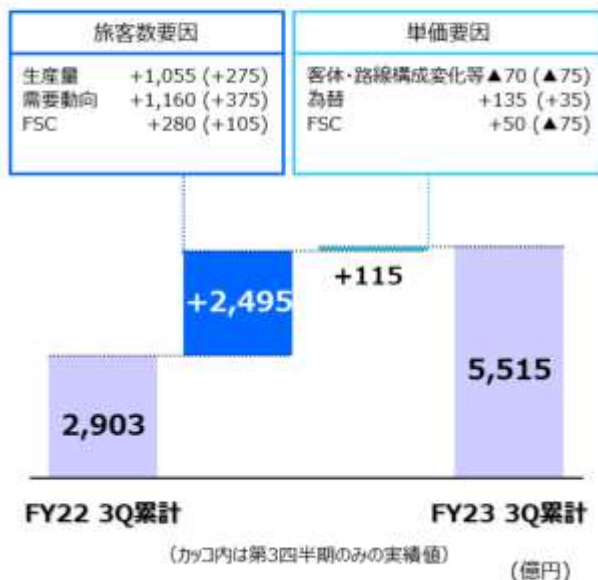
*1 座席利用率のみ前年差及びCY19差

*2 2019年4-12月期実績を、新収益認識基準に置き換えた場合の数値と比較

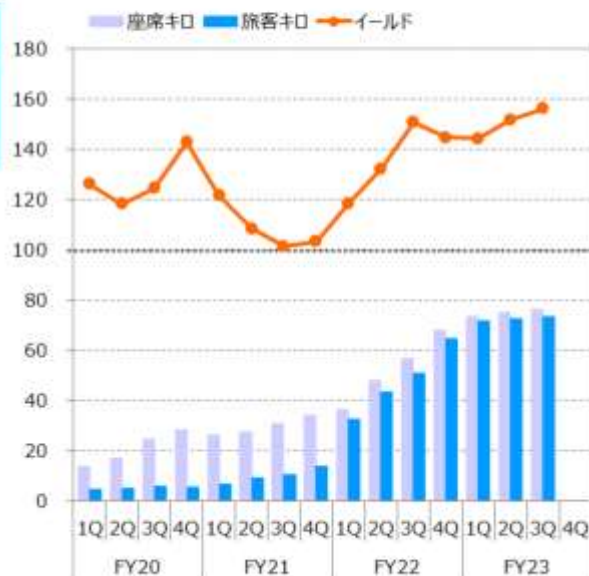
ANA国際旅客（事業動向）

第3四半期累計 収入増減要因（前年差）

四半期別 実績推移



指数：コロナ前（2019年1～12月）各四半期実績=100



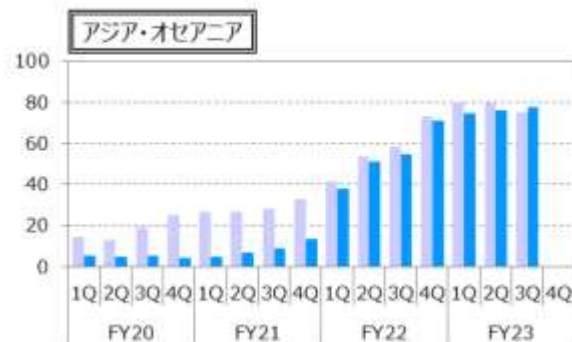
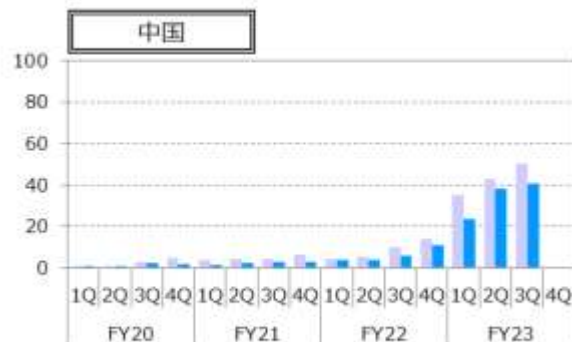
* 2020年度以前の実績は、新収益認識基準に置き換えて算定

- ① ANA国際旅客の状況です。
右のグラフは、四半期別のコロナ前比の実績推移をお示しています。
- ② 当第3四半期は、成田＝パース線の再開や、成田＝ホノルル線へのエアバスA380型機の3号機目の導入などにより、生産量を拡大しました。
訪日需要や日本発の業務渡航需要を着実に取り込み、旅客キロはコロナ前の73パーセントとなりました。
- ③ 一方、足元では各方面別に需給環境に変化が見られますが、徹底したイールドマネジメントにより、イールドはコロナ前の1.5倍を超える水準を維持しました。
- ④ 21ページをご覧ください。

ANA国際旅客（四半期別・方面別 推移）

指数：コロナ前（2019年1~12月）各四半期実績=100

■：座席キロ ■：旅客キロ



* 2020年度以前の実績は、新収益認識基準に置き換えて算定

©ANAHD2024

21

- ① 方面別の供給と需要の推移です。
- ② 北米方面は、生産量をコロナ前の9割程度まで回復する中、訪日客や日本発の業務渡航需要を中心に取り込んでいます。一方で、海外エアラインによる米中直行便の回復に伴い、米中流動の需給バランスは足元で緩みはじめています。
- ③ 欧州方面は、引き続き需給のひっ迫が続く中、日本発の業務渡航や訪日需要を着実に取り込みました。
- ④ 中国方面は、上海線や北京線で生産量を拡大しましたが、旅客数の回復は緩やかなペースとなっています。
- ⑤ アジア・オセアニア方面では、旺盛な訪日需要を早期に獲得することで、旅客キロのコロナ前比は8割程度まで上昇し、好調に推移しています。
- ⑥ 24ページをご覧ください。

Intentionally Left Blank

ANA国内旅客

	FY2022 第3四半期累計	FY2023 第3四半期累計	前年比(%) (CY19比)*2	FY2023 第3四半期	前年比(%) (CY19比)*2
座席キロ (百万)	37,136	41,244	+ 11.1 (△ 8.2)	13,726	+ 3.8 (△ 6.6)
旅客キロ (百万)	23,144	28,958	+ 25.1 (△ 14.1)	9,922	+ 9.6 (△ 11.3)
旅客数 (千人)	24,870	31,091	+ 25.0 (△ 15.1)	10,696	+ 10.0 (△ 12.4)
座席利用率 (%)	62.3	70.2	+7.9pt*1 (△4.8pt)	72.3	+3.8pt*1 (△3.9pt)
旅客収入 (億円)	3,921	4,965	+ 26.6 (△ 11.4)	1,736	+ 16.3 (△ 6.9)
ユニットレベニュー (円) (旅客収入/座席キロ)	10.6	12.0	+ 14.0 (△ 3.5)	12.7	+ 12.0 (△ 0.3)
イールド (円) (旅客収入/旅客キロ)	16.9	17.1	+ 1.2 (+ 3.1)	17.5	+ 6.1 (+ 5.0)
単価 (円) (旅客収入/旅客数)	15,768	15,972	+ 1.3 (+ 4.4)	16,234	+ 5.7 (+ 6.3)

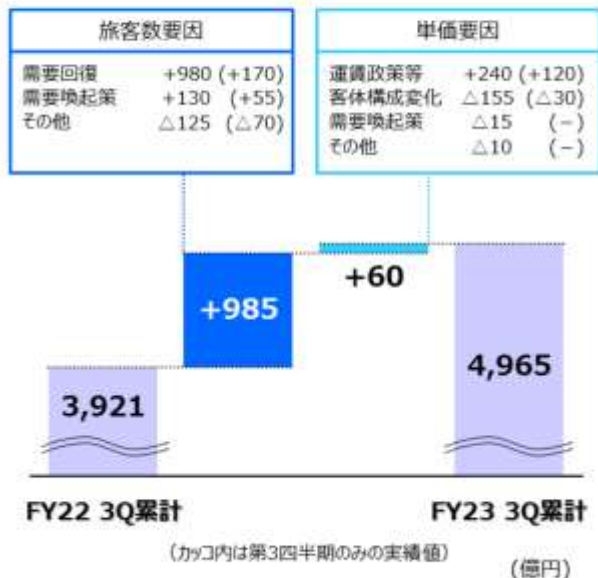
*1 座席利用率のみ前年差及びCY19差

*2 2019年4-12月期実績を、新収益認識基準に置き換えた場合の数値と比較

ANA国内旅客（事業動向）

第3四半期累計 収入増減要因（前年差）

四半期別 実績推移



[左] 指数（コロナ前（2019年1~12月）各四半期実績=100）
 [右] 実績（%）



* 2020年度以前の実績は、新収益認識基準に置き換えて算定

- ① ANA国内旅客の状況です。
右の四半期別実績のグラフをご覧ください。
- ② 当第3四半期は、需要喚起策を活用しながら、好調なレジャー需要を取り込んだことで、旅客数はコロナ前の88パーセントとなりました。
- ③ 単価は、一部運賃の値上げやマイルコントロールの効果により、コロナ前から約6パーセント上昇しました。
- ④ 29ページをご覧ください。

Intentionally Left Blank

Intentionally Left Blank

ANA国際貨物（ペリー+フレイター）

	FY2022 第3四半期累計	FY2023 第3四半期累計	前年比(%)	FY2023 第3四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	4,980	4,768	△ 4.3	1,608	△ 2.5
有償貨物トンキロ（百万）	3,205	2,620	△ 18.2	886	△ 11.6
貨物輸送重量（千トン）	622	517	△ 16.8	173	△ 12.2
貨物重量利用率（%）	64.4	55.0	△ 9.4pt*	55.1	△ 5.7pt*
貨物収入（億円）	2,561	1,191	△ 53.5	442	△ 39.0
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	51.4	25.0	△ 51.4	27.5	△ 37.4
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	79.9	45.4	△ 43.1	50.0	△ 31.0
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	412	230	△ 44.1	255	△ 30.5

* 貨物重量利用率のみ前年差

ANA国際貨物 (フレイターのみ)

本表のデータは、P.27記載実績の内数

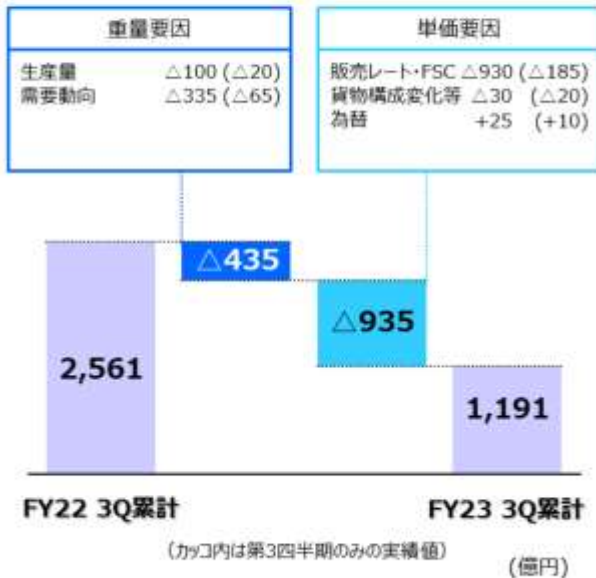
	FY2022 第3四半期累計	FY2023 第3四半期累計	前年比(%)	FY2023 第3四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ (百万)	1,805	1,368	△ 24.2	479	△ 17.4
有償貨物トンキロ (百万)	1,161	880	△ 24.1	312	△ 14.5
貨物輸送重量 (千トン)	291	220	△ 24.4	75	△ 19.3
貨物重量利用率 (%)	64.3	64.4	+ 0.1pt*	65.1	+ 2.2pt*
貨物収入 (億円)	1,089	476	△ 56.3	183	△ 41.4
ユニットレベニュー (円) (貨物収入/有効貨物トンキロ)	60.3	34.8	△ 42.3	38.3	△ 29.1
イールド (円) (貨物収入/有償貨物トンキロ)	93.8	54.0	△ 42.4	58.8	△ 31.4
重量単価 (円/kg) (貨物収入/貨物輸送重量)	374	216	△ 42.2	244	△ 27.4

* 貨物重量利用率のみ前年差

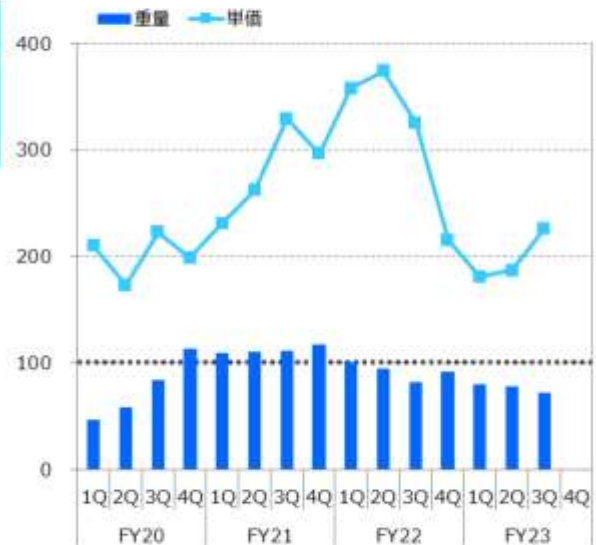
ANA国際貨物（事業動向）

第3四半期累計 収入増減要因（前年差）

四半期別 実績推移



指数：コロナ前（2019年1～12月）各四半期実績=100



- ① ANA国際貨物の状況です。
右のグラフで、貨物重量と単価について、コロナ前との比較をお示しています。
- ② 当第3四半期の貨物重量は、日本発着の貨物需要が弱含んでおり、引き続きコロナ前を下回って推移しました。
- ③ 一方で、中国発北米向けのeコマース需要が好調に推移したことや、フレイターでしか運べない大型特殊商材の取り込みを強化した結果、単価はコロナ前の2.3倍に上昇しました。
- ④ 32ページをご覧ください。

ANA国内貨物

	FY2022 第3四半期累計	FY2023 第3四半期累計	前年比(%)	FY2023 第3四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ (百万)	1,044	1,261	+ 20.8	416	+ 9.7
有償貨物トンキロ (百万)	216	214	△ 0.9	78	+ 0.1
貨物輸送重量 (千トン)	194	193	△ 0.5	71	△ 0.5
貨物重量利用率 (%)	20.8	17.0	△ 3.7pt*	18.7	△ 1.8pt*
貨物収入 (億円)	186	172	△ 7.6	62	△ 6.5
ユニットレベニュー (円) (貨物収入/有効貨物トンキロ)	17.8	13.6	△ 23.5	15.1	△ 14.7
イールド (円) (貨物収入/有償貨物トンキロ)	85.9	80.1	△ 6.8	80.6	△ 6.5
重量単価 (円/kg) (貨物収入/貨物輸送重量)	96	89	△ 7.1	88	△ 6.0

* 貨物重量利用率のみ前年差

LCC (Peach Aviation)

	FY2022 第3四半期累計	FY2023 第3四半期累計	前年比(%)	FY2023 第3四半期	前年比(%)
座席キロ (百万)	9,050	10,156	+ 12.2	3,443	+ 14.1
旅客キロ (百万)	6,414	8,758	+ 36.6	2,962	+ 34.3
旅客数 (千人)	5,613	7,042	+ 25.5	2,360	+ 22.4
座席利用率 (%)	70.9	86.2	+15.4pt*1	86.0	+13.0pt*1
売上高 (億円) *2	620	1,010	+ 62.9	336	+ 58.9
ユニットレベニュー (円) (売上高/座席キロ)	6.9	9.9	+ 45.2	9.8	+ 39.3
イールド (円) (売上高/旅客キロ)	9.7	11.5	+ 19.3	11.4	+ 18.3
単価 (円) (売上高/旅客数)	11,045	14,345	+ 29.9	14,268	+ 29.9

*1 座席利用率のみ前年差

*2 売上高に付帯収入を含む

Peach Aviation (事業動向)

四半期別 実績推移 (内際計)

[左] 指数 (コロナ前 (2019年1~12月) 各四半期実績=100)
[右] 実績 (%)



* 2019年はバニエアの実績を含む

©ANAHD2024

直近のトピック

国際線のリソース配分を高め、収益性を向上

(10月末から関西=仁川線、関西=香港線を増便)



32

- ① Peachの状況です。
- ② 当第3四半期は、国際線の座席キロ構成比を、第2四半期から10ポイント高め、訪日需要の取り込みを強化した結果、旅客数、単価ともに改善し、売上高はコロナ前の約1.9倍となりました。国際線のリソース配分を高めることで、着実に収益性を向上しました。
- ③ 以上の通り、第3四半期は、ANAブランド・Peachの各事業で単価を重視しながらトップラインを伸ばしたことで、利益規模の拡大と利益率の向上に繋がりました。
- ④ 最後になりますが、先般、「2024年度 ANAグループ航空輸送事業計画」を発表しました。2月9日からは新ブランドのAirJapanの運航も開始します。3ブランドの強みを最大限に発揮しながら、さらなる成長に向けて、グループ一丸となって取り組んでまいります。
- ⑤ 以上で、私からの説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

ANA国際旅客 方面別実績 (構成比)

* 2019年実績は、新収益認識基準に置き換えて算定

		FY2019 3Q累計 構成比	FY2023 3Q累計 構成比	コロナ前実績 との差	FY2023 3Q 構成比	コロナ前実績 との差
旅客収入	北米	29.7	38.7	+ 9.0	36.7	+ 7.9
	欧州	20.1	15.1	△ 5.0	14.7	△ 4.8
	中国	13.5	7.0	△ 6.5	6.4	△ 5.1
	アジア・オセアニア	30.1	33.0	+ 2.9	36.4	+ 3.2
	ハワイ	6.6	6.1	△ 0.5	5.8	△ 1.1
座席キロ	北米	31.6	37.6	+ 6.0	37.5	+ 6.6
	欧州	16.9	12.0	△ 4.9	11.7	△ 4.6
	中国	9.4	5.3	△ 4.1	6.0	△ 3.1
	アジア・オセアニア	35.6	37.2	+ 1.5	36.0	△ 0.6
	ハワイ	6.4	7.9	+ 1.5	8.8	+ 1.8
旅客キロ	北米	32.1	39.5	+ 7.4	37.1	+ 6.3
	欧州	17.2	12.8	△ 4.4	12.5	△ 4.3
	中国	9.0	4.2	△ 4.8	4.3	△ 3.4
	アジア・オセアニア	34.3	36.1	+ 1.8	38.7	+ 2.2
	ハワイ	7.4	7.4	△ 0.0	7.4	△ 0.7

ANA国際貨物 方面別実績 (構成比)

	FY2019 3Q累計 構成比	FY2023 3Q累計 構成比	コロナ前実績 との差	FY2023 3Q 構成比	コロナ前実績 との差	
貨物収入	北米 (ハワイを含む)	35.5	42.9	+ 7.4	47.6	+ 12.8
	欧州	15.3	9.1	△ 6.2	8.4	△ 7.3
	中国	22.3	23.2	+ 0.9	21.9	△ 0.8
	アジア・オセアニア	23.3	23.2	△ 0.1	20.6	△ 2.5
	その他	3.6	1.6	△ 2.0	1.5	△ 2.1
有効貨物 トンキロ	北米 (ハワイを含む)	43.4	48.1	+ 4.7	49.8	+ 7.8
	欧州	13.3	6.4	△ 6.9	6.1	△ 8.8
	中国	13.8	14.1	+ 0.3	13.7	+ 0.2
	アジア・オセアニア	27.6	31.0	+ 3.4	30.0	+ 2.3
	その他	1.8	0.4	△ 1.5	0.4	△ 1.4
有償貨物 トンキロ	北米 (ハワイを含む)	42.1	51.3	+ 9.2	52.3	+ 11.7
	欧州	18.0	9.8	△ 8.2	9.3	△ 9.5
	中国	13.2	14.0	+ 0.8	13.9	+ 0.2
	アジア・オセアニア	24.7	24.1	△ 0.6	23.9	△ 1.2
	その他	2.0	0.7	△ 1.3	0.7	△ 1.3

燃油・為替ヘッジの進捗状況 (ANA)

1. 燃油ヘッジ 基本方針

- 国内線消費量を対象にヘッジ (3年前から取引開始)
- 国際線消費量は原則としてヘッジ対象外 (燃油サーチャージで対応)



(US\$/bbl)	FY23 3Q累計実績	FY23 4Q前提
ドバイ原油	82.7	75
シンガポールケロシン	104.0	100

燃油サーチャージ
(国際線消費量)

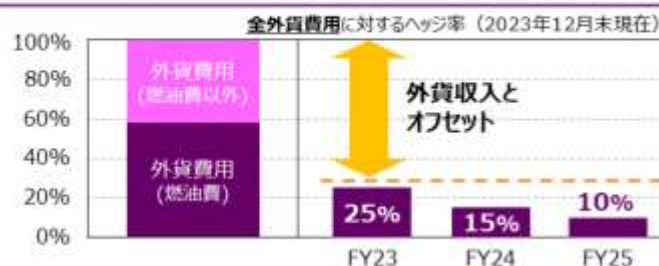
ヘッジ対象
(国内線消費量)

2023年度
燃油費感応度
(1US\$/bblの変動)

±約35億円
(ヘッジなし)

2. 為替ヘッジ 基本方針

- 不足する外貨量を対象にヘッジ (3年前から取引開始)



(円/US\$)	FY23 3Q累計実績	FY23 4Q前提
ドル円レート	143.3	145

外貨収入
(国際線事業)

ヘッジ対象
(不足外貨)

2023年度
外貨費用感応度
(1円/US\$の変動)

±約45億円
(ヘッジなし)

航空機数

	合計					退役済み機材*を除く		
	FY2022 期末	FY2023 第3四半期末	前年度 期末差	保有機数	リース機数	FY2022 期末	FY2023 第3四半期末	前年度 期末差
Airbus A380-800	3	3	-	3	-	3	3	-
Boeing 777-300/-300ER	18	18	-	9	9	18	18	-
Boeing 777-200/-200ER	10	10	-	10	-	10	10	-
Boeing 777-F	2	2	-	2	-	2	2	-
Boeing 787-10	3	3	-	2	1	3	3	-
Boeing 787-9	40	42	+ 2	36	6	40	42	+ 2
Boeing 787-8	36	36	-	31	5	36	36	-
Boeing 767-300/-300ER	15	15	-	15	-	15	15	-
Boeing 767-300F/-300BCF	9	9	-	6	3	9	9	-
Airbus A321-200neo	22	22	-	-	22	22	22	-
Airbus A321-200	4	4	-	-	4	4	4	-
Airbus A320-200neo	11	11	-	11	-	11	11	-
Boeing 737-800	39	39	-	24	15	39	39	-
De Havilland Canada DASH 8-400	24	24	-	24	-	24	24	-
ANA 計	236	238	+ 2	173	65	236	238	+ 2
Airbus A321-200neoLR	3	3	-	-	3	3	3	-
Airbus A320-200neo	10	15	+ 5	-	15	10	15	+ 5
Airbus A320-200	27	20	△ 7	-	20	19	17	△ 2
Peach Aviation 計	40	38	△ 2	-	38	32	35	+ 3
グループ 計	276	276	-	173	103	268	273	+ 5

航空事業以外のセグメント

(億円)	航空関連事業			旅行事業		
	FY2022 第3四半期累計	FY2023 第3四半期累計	前年差	FY2022 第3四半期累計	FY2023 第3四半期累計	前年差
売上高	1,802	2,092	+ 289	530	592	+ 61
営業利益	51	96	+ 44	△ 6	13	+ 19
減価償却費	32	30	△ 2	1	3	+ 2
EBITDA (営業利益+減価償却費)	84	126	+ 42	△ 5	16	+ 21
EBITDAマージン(%)	4.7	6.1	+ 1.4pt	-	2.8	-

	商社事業			その他		
	FY2022 第3四半期累計	FY2023 第3四半期累計	前年差	FY2022 第3四半期累計	FY2023 第3四半期累計	前年差
売上高	765	867	+ 101	272	287	+ 15
営業利益	30	42	+ 12	3	7	+ 3
減価償却費	6	7	+ 0	2	1	△ 1
EBITDA (営業利益+減価償却費)	37	49	+ 12	6	8	+ 1
EBITDAマージン(%)	4.8	5.7	+ 0.9pt	2.5	2.9	+ 0.4pt

(Memo)

グループ経営理念

安心と信頼を基礎に、世界をつなぐ心の翼で夢にあふれる未来に貢献します

グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である
 私たちはお互いの理解と信頼のもと確かなしくみで安全を高めていきます
 私たちは一人ひとりの責任ある誠実な行動により安全を追求します

グループ経営ビジョン

ワクワクで満たされる世界を

私たちは、空からはじまる多様なつながりを創り、
 社員・お客様・社会の可能性を広げていきます。

グループ行動指針
(ANA's Way)

私たちは「あんしん、あったか、あかるく元気！」に、次のように行動します。

1. 安全 (Safety)
安全こそ経営の基盤、守り続けます。
2. お客様視点 (Customer Orientation)
常にお客様の視点に立って、最高の価値を生み出します。
3. 社会への責任 (Social Responsibility)
誠実かつ公正に、より良い社会に貢献します。
4. チームスピリット (Team Spirit)
多様性を活かし、真摯に議論し一致して行動します。
5. 努力と挑戦 (Endeavor)
グローバルな視野を持って、ひたむきに努力し枠を超えて挑戦します。

免責事項

当資料には、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社グループの主要事業である航空事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、感染症の継続・拡大、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

当資料はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.ana.co.jp/group/investors>

株主・投資家情報 ➡ IR資料室 ➡ 決算説明会資料

ANAホールディングス(株) グループ経理・財務室 財務企画・IR部

Eメール : ir@anahd.co.jp